



平成31年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年10月25日

上場会社名 石塚硝子株式会社 上場取引所 東・名
 コード番号 5204 URL <http://www.ishizuka.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 石塚 久継
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 財務部長 (氏名) 畔柳 博史 (TEL) 0587-37-2111
 四半期報告書提出予定日 平成30年10月29日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績(平成30年3月21日～平成30年9月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	37,389	0.9	1,470	△17.0	1,361	△12.7	1,366	△8.2
30年3月期第2四半期	37,056	△0.6	1,771	2.7	1,560	94.0	1,488	366.4

(注) 包括利益 31年3月期第2四半期 1,617百万円(6.5%) 30年3月期第2四半期 1,518百万円(67.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
31年3月期第2四半期	円 銭 390.78	円 銭 —
30年3月期第2四半期	425.32	—

(注) 平成29年9月21日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
31年3月期第2四半期	百万円 76,298	百万円 26,585	% 31.0	円 銭 6,774.58
30年3月期	81,595	25,150	27.4	6,391.64

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 23,687百万円 30年3月期 22,350百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
30年3月期	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 —	円 銭 45.00	円 銭 45.00
31年3月期	—	—	—	—	—
31年3月期(予想)	—	—	—	45.00	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年3月21日～平成31年3月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	72,000	1.5	2,300	△10.9	1,900	△5.0	1,400	△16.1	400.38	

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正につきましては、本日(平成30年10月25日)に公表いたしました「平成31年3月期第2四半期(累計)の業績予想と実績の差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 平成31年3月期において、連結子会社である鳴海製陶(株)及び三重ナルミ(株)の決算期を2月末から12月末に変更する予定であります。(10か月の変則決算)。業績予想数値は当該影響を織り込んでいます。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 除外 1社 (社名) 亞德利玻璃 (珠海) 有限公司

(注) 詳細につきましては、添付資料 P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	31年3月期2Q	3,629,554株	30年3月期	3,629,554株
② 期末自己株式数	31年3月期2Q	132,958株	30年3月期	132,787株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	31年3月期2Q	3,496,654株	30年3月期2Q	3,499,221株

(注) 平成29年9月21日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、30年3月期2Qの期中平均株式を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用環境及び個人所得の改善が続き、設備投資も増加傾向にあるなど緩やかな回復基調で推移しました。一方、先行きにつきましては、米国の通商政策を発端とする貿易摩擦や英国のEU離脱交渉の不確実性など、依然として不透明な状況が見込まれます。

このような状況のなか、当社グループは、当期を最終年度とする中期経営計画(第82期～第84期)『Next Stage ISHIZUKA 84』において、「グループ総合力の結集」をコンセプトとし、営業利益の安定的確保・有利子負債の削減・グループを横断した機能強化に向け取り組んでおります。

売上高につきましては、PETボトル用プリフォームが順調に出荷を伸ばしたほか、抗菌剤も国内及び海外での販売が好調であったことなどにより、グループ全体の売上高は37,389百万円(前年同四半期比0.9%増)となりました。利益につきましては、売上高は増加しましたが、原燃料価格が上昇したことなどにより営業利益は1,470百万円(前年同四半期比17.0%減)となりました。受取配当金の増加や為替差損の減少などもありましたが営業利益の減少が響き、経常利益は1,361百万円(前年同四半期比12.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,366百万円(前年同四半期比8.2%減)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

ガラスびん関連

ガラスびんは、一部の食料調味料びんが他素材容器に移行したことにより出荷が大きく減少したことに加え、業務用ビール値上げ前の受注増加の反動によりビールびんの出荷が減少したことなどもあり、売上高は8,562百万円(前年同四半期比6.0%減)となりました。

ハウスウェア関連

ガラス食器は、企業向けの景品受注が減少しましたが、アルコールメーカー向けの業務用品及び貯蔵びんの販売が好調に推移しました。陶磁器は、国内の百貨店及び法人向けの受注が減少しましたが、海外のホテル・レストラン向け及びエアライン向けの受注が増加し、セグメント全体の売上高は7,504百万円(前年同四半期比2.1%増)となりました。

紙容器関連

紙容器は、主要ユーザーからの受注が落ち込んだことに加え、一部ユーザーにおける新形状容器への移行などにより出荷が伸び悩み、売上高は3,830百万円(前年同四半期比4.8%減)となりました。

プラスチック容器関連

プラスチック容器は、前期の7月度に立ち上げた新ラインが順調に稼働し需要の増加に対応できたことに加え、主要ユーザーへの販売が好調であったことなどにより、売上高は14,515百万円(前年同四半期比5.9%増)となりました。

産業器材関連

産業器材は、ガスコンロ用トッププレートの受注は増加したものの、IHクッキングヒーター用トッププレートの受注が減少したことにより、売上高は901百万円(前年同四半期比1.0%減)となりました。

その他

抗菌剤は、国内及び海外での販売が順調に拡大しました。一方、金属キャップは医薬品向けの出荷が伸び悩みましたが、セグメント全体の売上高は2,073百万円(前年同四半期比6.1%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ3,916百万円減少し、2,803百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は、4,630百万円（前年同四半期は1,872百万円の資金増加）となりました。資金増加の主な要因は、税金等調整前四半期純利益、減価償却費及び仕入債務の増加等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、1,638百万円（前年同四半期は2,874百万円の資金減少）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果減少した資金は、6,914百万円（前年同四半期は899百万円の資金増加）となりました。資金減少の主な要因は、短期借入金の増減額の減少及び長期借入金の返済による支出によるものです。

一方、資金増加の主な要因は、社債の発行による収入によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期通期の業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、平成30年4月25日に公表いたしました業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日（平成30年10月25日）公表いたしました「平成31年3月期第2四半期（累計）の業績予想と実績との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,724	2,803
受取手形及び売掛金	11,875	11,390
商品及び製品	10,987	10,728
仕掛品	798	820
原材料及び貯蔵品	4,348	4,750
その他	1,498	1,396
貸倒引当金	△9	△0
流動資産合計	36,222	31,889
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,553	7,276
機械装置及び運搬具(純額)	8,022	7,438
土地	15,784	15,784
その他(純額)	5,249	5,104
有形固定資産合計	36,610	35,604
無形固定資産	181	145
投資その他の資産		
投資有価証券	7,605	7,666
その他	912	904
貸倒引当金	△25	△28
投資その他の資産合計	8,491	8,542
固定資産合計	45,283	44,292
繰延資産	89	116
資産合計	81,595	76,298

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,192	7,181
短期借入金	14,358	8,365
1年内償還予定の社債	805	855
未払法人税等	248	334
賞与引当金	728	756
その他	5,455	4,820
流動負債合計	27,789	22,314
固定負債		
社債	3,554	4,523
長期借入金	10,113	8,825
役員退職慰労引当金	66	68
汚染負荷量引当金	516	504
退職給付に係る負債	5,924	5,821
その他	8,479	7,656
固定負債合計	28,655	27,398
負債合計	56,445	49,713
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,911	5,911
資本剰余金	4,149	4,149
利益剰余金	5,018	6,227
自己株式	△298	△298
株主資本合計	14,781	15,989
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,771	2,772
繰延ヘッジ損益	△155	69
土地再評価差額金	5,338	5,338
為替換算調整勘定	151	△2
退職給付に係る調整累計額	△537	△480
その他の包括利益累計額合計	7,569	7,698
非支配株主持分	2,800	2,897
純資産合計	25,150	26,585
負債純資産合計	81,595	76,298

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月21日 至平成29年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月21日 至平成30年9月20日)
売上高	37,056	37,389
売上原価	29,335	30,008
売上総利益	7,720	7,380
販売費及び一般管理費	5,949	5,909
営業利益	1,771	1,470
営業外収益		
受取利息	3	2
受取配当金	95	171
受取賃貸料	79	79
その他	71	39
営業外収益合計	250	292
営業外費用		
支払利息	229	185
為替差損	63	3
解約損	—	67
その他	168	144
営業外費用合計	461	402
経常利益	1,560	1,361
特別利益		
関係会社清算益	—	214
関係会社整理益	53	—
特別利益合計	53	214
特別損失		
災害による損失	—	56
固定資産除却損	—	20
特別損失合計	—	77
税金等調整前四半期純利益	1,613	1,499
法人税、住民税及び事業税	349	268
法人税等調整額	△321	△214
法人税等合計	28	54
四半期純利益	1,585	1,444
非支配株主に帰属する四半期純利益	97	78
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,488	1,366

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月21日 至平成29年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月21日 至平成30年9月20日)
四半期純利益	1,585	1,444
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△68	29
繰延ヘッジ損益	△46	239
為替換算調整勘定	△19	△153
退職給付に係る調整額	67	57
その他の包括利益合計	△66	172
四半期包括利益	1,518	1,617
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,444	1,496
非支配株主に係る四半期包括利益	74	120

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月21日 至平成29年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月21日 至平成30年9月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,613	1,499
減価償却費	2,219	2,076
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△4	△6
賞与引当金の増減額(△は減少)	35	27
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△1	1
汚染負荷量引当金の増減額(△は減少)	△14	△12
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	51	△30
受取利息及び受取配当金	△99	△174
支払利息	229	185
為替差損益(△は益)	48	12
関係会社整理益	△53	—
関係会社清算益	—	△214
災害損失	—	56
売上債権の増減額(△は増加)	△2,752	453
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,168	△227
未収入金の増減額(△は増加)	△108	△18
前渡金の増減額(△は増加)	△81	9
仕入債務の増減額(△は減少)	12	1,001
未払費用の増減額(△は減少)	4	368
その他	164	△341
小計	2,432	4,665
利息及び配当金の受取額	99	174
利息の支払額	△227	△185
関係会社整理損の支払額	△87	—
法人税等の支払額	△344	△23
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,872	4,630
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△5	—
定期預金の払戻による収入	—	4
有形固定資産の取得による支出	△3,194	△1,661
有形固定資産の売却による収入	281	3
投資有価証券の取得による支出	△11	△9
貸付けによる支出	△19	△2
貸付金の回収による収入	75	2
その他	△1	26
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,874	△1,638

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月21日 至平成29年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月21日 至平成30年9月20日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	△415	△5,000
長期借入れによる収入	1,970	50
長期借入金の返済による支出	△2,074	△2,331
社債の発行による収入	1,456	1,358
社債の償還による支出	△889	△381
セール・アンド・リースバックによる収入	1,594	—
リース債務の返済による支出	△554	△422
配当金の支払額	△140	△157
非支配株主への配当金の支払額	△40	△29
その他	△7	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	899	△6,914
現金及び現金同等物に係る換算差額	△23	6
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△126	△3,916
現金及び現金同等物の期首残高	5,937	6,720
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,810	2,803

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当第2四半期連結累計期間において、亞德利玻璃（珠海）有限公司は清算終了したため、連結の範囲から除外しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成29年3月21日 至 平成29年9月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	ガラス びん 関連	ハウス ウェア 関連	紙容器 関連	プラス チック 容器 関連	産 器 材 関 連	業 材 関 連				
売上高										
外部顧客への売上高	9,108	7,351	4,023	13,707	910	35,102	1,954	37,056	—	37,056
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	12	—	246	—	258	2,861	3,119	△3,119	—
計	9,108	7,363	4,023	13,953	910	35,360	4,815	40,176	△3,119	37,056
セグメント利益	63	158	250	1,076	75	1,624	145	1,770	0	1,771

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、当社及び子会社の一部の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額0百万円には、たな卸資産の調整額0百万円、その他0百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成30年3月21日 至 平成30年9月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	ガラス びん 関連	ハウス ウェア 関連	紙容器 関連	プラス チック 容器 関連	産 器 材 関 連	業 材 関 連				
売上高										
外部顧客への売上高	8,562	7,504	3,830	14,515	901	35,315	2,073	37,389	—	37,389
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	12	—	246	—	259	2,915	3,174	△3,174	—
計	8,562	7,517	3,830	14,761	901	35,574	4,988	40,563	△3,174	37,389
セグメント利益	48	155	73	990	66	1,334	132	1,467	3	1,470

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、当社及び子会社の一部の事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額3百万円には、たな卸資産の調整額3百万円、その他△0百万円が含まれておりません。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。